

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Eurosurveillance vol 13, 40, Oct.2, 2008	チェコ共和国保健保護庁によると、2008年5月以降チェコにおいてA型肝炎症例の増加が観察されており、年初から9月28日までに602例が報告され、2007年の同時期に8倍、2003～2007の各都市の同時期平均と比べて6倍であった。
2	B型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: e52-56	2000年1月から2004年12月に日本で新たにB型肝炎表面抗原陽性となった患者を調査したところ、552名中23名(4%)がHBV再活性化で、529名が急性B型肝炎であった。再活性化群は急性B型肝炎群に比べ、年齢およびHBV DNA値が有意に高く、ALTおよびアルブミンピーク値は低かった。また再活性化群の4分の1の患者が劇症肝不全となり、死亡した。肝臓関連死亡率は再活性化群の方が有意に高かった。
3	B型肝炎	FDA/CBER 2008年5月 業界向けガイダンス(案)	FDAはB型肝炎コア抗原に対する抗体(抗HBc抗体)が陽性となったために供血延期となった供血者のリエントリー・アルゴリズムを提案するガイダンス案を発表した。これまで、抗HBc抗体が2回以上陽性となった供血者は無期限に供血延期とされていたが、本ガイダンスでは2回目に陽性となった後、8週間以上経ってからHBs抗原、抗HBc抗体および高感度HBV NATによってHBV感染が否定された場合は供血可能となる。
4	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	スロヴェニアで、HBs抗原陰性で抗HBc抗体陽性、抗HBs抗体低力価陽性、HBV DNA陽性の濃厚赤血球と新鮮凍結血漿を輸血された59歳の患者が4ヶ月後に急性B型肝炎を発症した。また同じ供血血液由来のRCCの輸血を受けた71歳の患者も7ヶ月後にHBV感染を認めた。2例ともドナーと同じ配列を有するジェノタイプDが感染していた。潜在性B型肝炎ウイルス感染者の血液は抗HBs抗体が陽性にかかわらず、感染性を有した。
5	B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	1971～2005年の35年間に虎ノ門病院に来院した急性HBV感染患者153名および慢性HBV感染患者4277名について5年間毎のHBVジェノタイプ/サブジェノタイプを調べた。急性感染患者数は35年間で増加し続けた。慢性感染患者は1986～1990年が最大であった。ジェノタイプは急性感染患者と慢性感染患者で大きく異なった(A、B、C型:28.6%、10.3%、59.5% vs 3.0%、12.3%、84.5%)。最近では外国のサブジェノタイプB2/Baが増加する傾向がある。
6	B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	供血時には血清検査陰性であったが、その後HBV DNAが検出された供血者由来の血液成分を輸血された2名の免疫不全患者について調べた。受血者1はHBVワクチン接種を受け、抗HBsキャリアであったが、赤血球輸血後13ヶ月で急性B型肝炎を発症するまで他のHBVマーカーは全て陰性であった。供血者とHBVシーケンスが一致したため、輸血関連感染と確認された。受血者2は血小板輸血を受けたが、感染していなかった。
7	B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	HBV DNA陽性かつ表面抗原(HBsAg)陰性オカルトHBV感染の検出感度を上げるために、HBV DNAとHBsAgを同時に濃縮する新規方法を開発した。二価金属存在下でpoly-L-lysineでコートした磁気ビーズを使用し、ウイルス凝集反応を増強させ、ウイルスを濃縮する方法により、HBV DNAとHBsAg量は、最高4～7倍に濃縮された。本方法により、EIAとHBV NATの感度が上昇し、HBsAg EIAを用いてオカルトHBV感染者40名のうち27名を検出することができた。
8	C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10～12日	症例は再生不良性貧血の54歳の女性で、2007年6月20日に初回輸血が実施され、初回輸血前検査はHCV抗体陰性、HCVコア蛋白陰性で、あった。10月1日の輸血後、HCVコア蛋白が陽性化したため、遡及調査を開始した。患者には計54本の輸血があり、保管検体の個別NATにより、1検体からHCV-RNAを検出した。患者と献血者のHCV Core-E1-E2領域の塩基配列が一致したことから、本症例は輸血によるHCV感染である可能性が極めて高い。
9	C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 627-633	フランスの大学病院の血液透析ユニットでのHCV伝播リスクにおける環境汚染および標準的注意の非遵守の役割を評価した。試験期間中にHCV陽性となった2名のうち1名は、同ユニットで治療中の慢性感染患者と同じウイルス株に感染していることが系統遺伝学的解析により明らかとなった。環境表面検体740例中82例がヘモグロビンを含み、その内6例がHCV RNAを含んでいた。手の衛生に関する遵守率は37%、患者ケアの直後に手袋をはずしていたのは33%であった。
10	C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	ニューヨーク市のEast Harlemのクリニックから18歳以上で血中HCV PCR陽性の吸引用麻薬常習者38名の鼻汁検体および吸引に使用したストローを入手し、血液およびHCV RNAの存在の有無を調べた。鼻汁検体28例(74%)、ストロー3例(8%)から血液が検出され、鼻汁検体5例(13%)、ストロー2例(5%)でHCV RNAが検出された。HCVウイルスの鼻腔内伝播のウイルス学的妥当性が示された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
11	E型肝炎	Chin J Biol 2007; 20: 570-574	HEVの中国長春地域の動物群における感染状況および系統進化の関係について分析を行った。抗HEV抗体陽性率は、ブタ86.61%、ウシ45.86%、ヒツジ7.53%、シカ43.61%、ニワトリ4.88%、ウマ15.74%で、ブタにおける流行の割合は他の動物群に比べ明らかに高かった。また、ブタ感染HEVの遺伝子配列と、ヒトにおける散発性E型肝炎ウイルスの遺伝子型である4型の相同性が最も高かった。
12	E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	2004年9月20日に39歳日本人男性から献血された血液はALT高値のため不適当とされ、HEV陽性であった。当該ドナーの遡及調査の結果、9月6日にも献血を行い、HEV RNAを含有する血小板が輸血されていた。当該ドナーと親戚は8月14日にブタの焼肉を食べており、父親は9月14日に急性肝炎を発症し、E型劇症肝炎で死亡した。他に7名がHEV陽性であった。レシピエントは輸血22日目にALTが上昇し、HEVが検出された。
13	E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 282-283	2005年の中国の4都市(Beijing、Urmuchi、KunmingおよびGuangzhou)における供血検体のHEV感染率を調べた。その結果、ルーチン検査(抗HCV、抗HIV1/2、HBsAg、梅毒およびALT)陰性供血者の約1%は抗HEV IgMまたはHEV Ag陽性で、HEV感染の可能性があった。また、ALTスクリーニングは中国のHEV感染血排除に役立つ可能性があった。
14	E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	日本のブタから分離されたHEVジェノタイプ3または4の4株について熱処理およびフィルターによる除去の程度を検討した。HEVはアルブミン溶液中で60°C5時間加熱後およびフィブリノゲン中で60°C72時間加熱後も感染力が検出されたが、PBS中で60°C5時間加熱後およびフィブリノゲン中で80°C24時間加熱後には検出限界以下に不活化された。また、20nmナノフィルター使用により完全に除去された。
15	E型肝炎	IDWR感染症週報2008年第36週	1999年4月(感染症法施行)~2008年第26週に都道府県から報告された288例のうち、国内感染例218例、男性177例、女性41例である。感染経路は経口感染があり、飲食物の記載があったものは111例で、内訳はブタ47例、イノシシ24例、シカ15例である。予防は肉や内臓を充分加熱することである。
16	HIV	WTOP news. Com 2008年8月15日	アルゼンチンCordoba州の公立病院において、輸血を受けた集中治療中の患者2名がHIVに感染した。供血者は12月に供血した時にはHIV陰性であった。5月に再び供血した時にはHIV陽性であったが、血液は既に使用されていた。アルゼンチンでは約12万人がHIVに感染している。
17	インフルエンザ	CDC/MMRW 57(49)1329-1332/2008.12.12	米国2008年9月28日~11月29日におけるインフルエンザウイルスの活動性に関する報告。新規のインフルエンザAウイルスに感染したヒト症例1例(14歳)がTexasから報告された。ブタとの数回接触後、ブタインフルエンザウイルスA/H1N1に感染した。症例は回復し、患者の家族又は接触者には発症していない。
18	インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	タミフル耐性型の「通常の」季節性インフルエンザが急速に拡大しており、南アフリカでは今年の冬(2008~2009年)のインフルエンザに効果がないおそれがある。WHOのデータによると同国でH1N1株に感染した107名に関する検査の結果、全員がタミフルに耐性の突然変異株を保有していた。2008年4月1日から8月20日に南半球の12カ国のH1N1インフルエンザ感染患者由来検体788例中242例(31%)がタミフル耐性に関係があるH274Y突然変異を有していた。
19	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2008; 358: 2573-2584	細胞培養で製造したH5N1鳥インフルエンザワクチンのPhase 1および2試験を行った。その結果、大多数の被験者においてアジュバントなしの7.5 μgまたは15 μgのヘマグルチニン抗原を含有するワクチンの2回接種が、様々なH5N1ウイルス株に対する中和抗体の合成を誘発することが示された。注射部位での軽度の痛みと頭痛が主な有害反応であった。このワクチンが有用であることが示唆された。
20	鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2008年6月19日	WHOに報告された2003年以降のトリインフルエンザ確定ヒト症例の集計数である。2008年は、5月28日現在、バングラデシュで1例(死亡0例)、中国で3例(死亡3例)、エジプトで7例(死亡3例)、インドネシアで18例(死亡15例)、およびベトナムで5例(死亡5例)が報告され、合計34例(死亡26例)である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
21	鳥インフルエンザ	Wkly Epidemiol Rec 2008; 83: 359-364	2007年10-11月にパキスタンで発生したトリインフルエンザA(H5N1)の家族クラスターでは、25~32歳の兄弟3例が確定症例で、内1例が死亡し、2例は回復した。更に、同一家族内で感染可能性例1例、および無症候性の血清反応陽性例1例が検出された。1例目の症例のみが感染した家禽への接触歴があった。家族内での限定的なヒト-ヒト感染が発生したが、コミュニティへは拡大しなかった。
22	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	2008年9月に、イタリアで何年かぶりにヒトのウエストナイルウイルス(WNV)脳炎が2例報告された。1例目はFerraraとBolognaの間に住む80歳代の女性、2例目はFerraraに住む60代後半の男性であった。また、ウマ6頭とトリ13羽でWNV感染が確認された。WNV髄膜脳炎の積極的サーベイランスプログラムが開始され、当該地域で供血者スクリーニング用NATが導入された。また、当該地域に1日以上滞在したことのある供血者を28日間供血延期する措置がとられた。
23	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2008; 57(21): 577-580	2007年7月19日、米国赤十字はプエルトリコにおいてNATによる献血のスクリーニングを行い、WNV陽性を示した3名をプエルトリコ保健省に報告した。これら3名はプエルトリコにおいてWNV感染が確認された最初のヒト症例である。WNVによりもたらされる公衆衛生上の脅威を監視および評価するためには、WNV感染に関する臨床医の意識向上、調査の継続ならびに教育活動が必要である。
24	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 14:804-807 May2008	ハリケーン被害地域(ルイジアナ州およびミシシッピ州)の2006年のウエストナイルウイルス感染発生率は2002-2005年の平均発生率と比較して2倍以上に増加した。
25	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080828.2697	インド東部のウッタルプラデシュ州で小児を死亡させている原因不明のウイルスは、インド保健省の専門家らにより急性脳炎症候群と診断された。同州の13の地区では、数週間におよそ800人の患者が発生し150人が死亡したと報告され、その数は増加すると見られている。血液検査で日本脳炎陽性となった患者は5%以下であった。日本脳炎とエンテロウイルスとの混合感染の可能性について調査中である。
26	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2008年11月6日	2008年6月2日に短期間の疾病後に処分されたBritish Columbiaの乳牛は、カナダで13頭目のBSE牛であることが確認された。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。該当牛は2003年4月22日生まれで、死亡時61月齢であった。生まれてから一生同じ農場で過ごした。一緒に飼育されていた207頭について飼料コホートが実施された。本症例検出により、カナダBSEリスクパラメーターは変更されない。
27	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2008年8月15日	2008年8月15日、CFIAは、Albertaの6歳の肉牛がBSEであることを確認した。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。国際ガイドラインに基づいた疫学的調査を実施中である。
28	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC/MMWR 2008; 57(42): 1152-1154	日本のCJDサーベイランスグループの調査によると、死体硬膜移植片(大部分がドイツ製品Lyodura)に関連したCJDと同定された症例数は1996年には43例であったが、2008年には132例に増加した。132例全員が1978~1993年に硬膜移植を受けており、1985年9月から2006年10月に発症した。発症時の平均年齢は55歳(18~80歳)で、潜伏期間中央値は12.4年で、最長24.8年であった。
29	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	オーストリアの39歳男性が感覚異常などの神経症状で入院後、急速に悪化し、4ヶ月後に死亡した。組織学的検査で海綿状変化、神経細胞脱落及びグリオシスが、免疫組織化学的検査でびまん性シナプティックな異常プリオンの沈着が見られ、CJDと診断された。また患者のPRNPIは129Met-Metであった。患者は22年前まで死体由来のヒト成長ホルモン(hGH)製剤治療を受けており、医原性リスクが認められるため、孤発性若年性CJDの可能性も否定できないが、WHO基準により確定医原性CJDと分類された。
30	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	CJDサーベイランス委員会による調査では1999年4月から2008年2月までの9年間に日本国内で1069例がプリオン病と判定された。うち孤発性CJDが821例(76.8%)、遺伝性プリオン病が171例(16.0%)、硬膜移植後CJD74例(6.9%)、変異型CJD1例(0.1%)、分類不能2例(0.2%)であった。日本のプリオン病剖検率は欧米諸国より著明に低かった。孤発性CJDの病型は欧米に比べMM2型が多かったが、非典型例が多く剖検されている可能性が考えられた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
31	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	ウイルス除去膜濾過工程を含んでいる製剤(血液凝固第VIII因子製剤: プラノバ20N濾過、抗HBs人免疫グロブリン製剤: プラノバ35N濾過)について、263K株感染ハムスターより得たSUS処理PrP ^{Sc} を用いて、その除去効果を検証した。その結果、SUS処理PrP ^{Sc} は濾過膜の孔径よりも小さいにもかかわらず、プラノバ35Nやプラノバ20Nで除去された。PrP ^{Sc} が凝集したり、膜へ吸着したためと考えられる。
32	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	スクレイピー263K感染ハムスター脳乳剤を脳内接種したハムスターにおける血中PrPres経時的变化を追跡したところ、PK抵抗性3F4反応性蛋白バンドは、感染後4~6週で認められ、10週ではほぼ消失した。発症末期では血中PrPresと見られる蛋白バンドは認められなかった。PrPresをマーカーとした血液検査は感染後発症前~発症中期までに限定される可能性が示唆された。
33	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/Press Releases 2008年8月28日	Blood誌のprepublished onlineに掲載されたヒツジにおける研究によると、輸血によるBSE伝播のリスクは驚くほど高い。エジンバラ大学で行われた9年間の研究は、BSEまたはスクレイピーに感染したヒツジからの輸血による疾病伝播率を比較した。その結果、BSEおよびスクレイピーとも輸血によりヒツジに効率よく伝播された。症状を呈する前のドナーから採取された血液によっても伝播することが示された。
34	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	ヒツジを用いた感染実験において、BSEは36%、スクレイピーは43%と予想以上に高い輸血伝播率を示した。高い伝播率および臨床的に陽性のレシピエントにおける比較的短期間の一定した潜伏期間は、血中の感染性力価が高いことおよびTSEが輸血により効率的に伝播することを示唆する。血液製剤によるヒトでのvCJD伝播を研究するために、ヒツジが有用なモデルであることが示された。
35	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2008; 134: 757-768	マウスPrP ^{Sc} と混合させることによって折り畳み異常が起こったハムスターPrP ^C は、野生型ハムスターに対して感染性を起こす新規なプリオンを生成した。同様の結果は、反対方向でも得られた。PMCA増幅を繰り返すとin vitro産生プリオンの順応が起こる。このプロセスは、in vivoでの連続継代に観察される株の安定化を暗示させる。種の壁と株の生成がPrP折り畳み異常の伝播によって決定されることが示唆される。
36	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	263Kスクレイピーの臨床症状を呈するハムスター22匹の尿にTSE感染性があることが示された。これらの動物の腎臓と膀胱のホモジネートは20000倍以上希釈してもTSE感染性があった。組織学的、免疫組織化学的分析では、腎臓における疾患関連PrPの散発的な沈着以外、炎症や病変は見られなかった。尿中のTSE感染性が、自然のTSEの水平感染に何らかの役割を果たす可能性がある。
37	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Infect Dis 2008; 198: 81-89	未接種のシリアンハムスター(Shas)を、Sc237プリオンに経口的に感染させたShasと共に飼育するかまたはその排泄物に曝露させた。曝露した動物でのプリオン感染率は80-100%で、潜伏期間は140日以下であり、糞、おそらく糞食を介した伝播が示唆された。Shaプリオンを過剰発現するトランスジェニックマウスに脳内接種したところ、潜伏期間の無症候期を通して低レベルの感染性プリオンの排泄が続いていた。
38	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e2878	野生型マウスおよびヒトPrPを発現しているトランスジェニックマウスに、輸血関連vCJD感染第1号症例由来の脳材料を接種し、輸血によるヒト-ヒト間の2次感染後のvCJD病原体の性質について調べた。その結果、潜伏期間、臨床症状、神経病理学的特徴およびPrP型について、vCJD(輸血)接種群はvCJD(BSE)接種群と類似していた。vCJD病原体は、ヒトにおける2次感染により、有意な変化が起こらないことが明らかとなった。
39	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	非定型BSE(BASE)に感染した無症候のイタリアの乳牛の脳ホモジネートをカニクイザルに脳内接種した。BASE接種サルは生存期間が短く、古典的BSEまたはvCJD接種サルとは異なる臨床的展開、組織変化、PrPresパターンを示した。感染牛と同じ国の孤発性CJD患者でPrPが異常なウエスタンプロットを示す4例のうち3例のPrPresに同じ生化学的特徴を認めた。BASEの霊長類における高い病原性および見かけ上孤発性CJDである症例との関連の可能性が示唆された。
40	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	米国アラバマのBSE確定ウシでウシプリオン蛋白遺伝子(Prnp)におけるE211Kと呼ばれる新規の遺伝子変異を同定した。この変異は遺伝性CJDのヒトにおいて見られるE200K病因性変異と同一であり、ウシPrnp遺伝子内で潜在的病原性変異を有するBSE確定ウシの最初の報告である。最近の疫学的試験によるとK211アレルは6062頭のウシで全く検出されず、E211K変異は極めて頻度が低い(2000例中1例未満)。

No.	感染症(PT)	出典	概要
41	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	畜産技術 2008年6月号19-22頁	PrPBSEの取り込みに関わる腸粘膜の細胞を同定するため、ウシ腸上皮細胞株を樹立し、M細胞分化誘導系を確立した。この系を用いてM細胞がPrPScを取り込むことを証明した。この結果から、PrPBSEが経口摂取によって感染するときに、腸のバイエル板を覆うドーム部の上皮層にあるM細胞が関わるのが強く推定された。
42	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080926.3051	スペイン保健省は、ヒト型狂牛病で死亡したスペイン人男性の母親もまた同じ疾病で死亡したと発表した。同じ家族で2名が狂牛病で死亡したのは世界で初めてと思われる。母親は60代初めて、2008年8月に死亡し、2008年9月24日に狂牛病が原因であったことが確定された。彼女の息子は2008年2月に同じ病気で死亡していた。2005年以降、スペインでは計4例の狂牛病確定例が報告されている。
43	エボラ出血熱	OIE Press Release 23Dec2008	ブタにおけるEbola-Restonウイルスの初めての検出: フィリピンにおいてブタからEbola-Restonウイルスが検出されたことを受けて、フィリピン政府がFAO、OIEおよびWHOに専門家の派遣を要請した。2007年および2008年にNueva EcijaおよびBulacanの農場においてブタの死亡が増加したことからフィリピン政府による調査が開始され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(RRRS)およびEbola-Restonウイルス感染が確認された。フィリピンのサルにおいては感染が確認されている。
44	エボラ出血熱	WHO/EPR 2009年2月3日	フィリピン政府は2009年1月23日に感染ブタと接触したと思われる一人がエボラウイルス・レストン株(ERV)の抗体(IgG)検査で陽性となったことを伝えたが、1月30日にさらに4人がERV抗体検査陽性となったことを発表した。5人は健康状態もよく、いずれも感染ブタに直接接触したことでウイルスに暴露された可能性がある。
45	エルシニア感染	Am J Med 2008; 121: e1	55歳の健康な男性が右腋にゴルフボール大の塊ができ、2、3日で3倍の大きさになったため、切開し、排膿した。膿瘍培養からYersinia enterocoliticaが検出された。患者は豚肉を切る仕事をしており、右指を切ることが頻繁にあった。豚肉への曝露によりYersiniaが直接皮膚に接種され、腋窩に膿瘍を形成したと考えられる稀な症例で、初めての症例報告と思われる。
46	クロストリジウム感染	ProMED-mail20080522.1683	中国CDCによると、Sichuan大学Huaxi病院で30名の患者がガス壊疽に感染した。感染の拡大を防ぐため隔離病棟が設けられた。地震で負傷した患者は診断のため隔離病棟に送られる。今までのところ同病院での交差感染はない。
47	大腸菌性胃腸炎	Jpn J Infect Dis 2008; 61: 161-162	2006年10月2日に、腸管出血性大腸菌O157:H7(VT1&2)症例が健康福祉センターに報告された。患者は1歳の女児で、横浜市保健所は便検体からPCRとRPLAによりペロ毒素を検出した。9歳の兄からも同菌が検出された。患者の家族は横浜市にある牧場で搾乳イベントに参加しており、その乳牛から同菌が検出され、PFGE分析の結果、乳牛から感染したことが示唆された。
48	細菌性胃腸炎	ProMED-mail2008030505.0901	2008年3月5日、フィリピンの保健当局は、首都近郊の市で1ヶ月の内に1400人以上が腸チフス症状を示したと発表した。2008年2月16日以降、1477例が腸チフス症状を呈し、うち436例が6ヶ所の病院で治療を受けた。腸チフス検査は高価なため、その内の37例が血液検査により確定されただけである。今までのところ死亡例は報告されていない。
49	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080523.1697	2008年5月22日、インドKarnataka地方では2100例以上がチクングニヤと確定されており、チクングニヤ症例数は、4000例以上と推定されると副長官が述べた。Sullia talukが最悪で、報告された2100例のうち1300例が同地区の症例である。
50	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080602.1759	スリランカRatnapura地区におけるチクングニヤ症例は10000~15000例であることが明らかとなった。チクングニヤ症例の急激な増加を受けて、緊急事態が宣言された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
51	チクングニヤウイルス感染	Transfusion 2008; 48: 1333-1341	2005年から2007年に、チクングニヤウイルス(CHIKV)はレユニオン島で大流行し、供血は2006年1月に中断された。大流行中のウイルス血症血供の平均リスクは、10万供血あたり132と推定された。2006年2月の最流行時におけるリスクは、10万供血あたり1500と最高であった。この期間中、757000人の住民のうち推定312500人が感染した。2006年1月から5月の平均推定リスク(0.7%)は、CHIKV NAT検査による血小板供血のリスク(0.4%)と同じオーダーであった。
52	チクングニヤウイルス感染	J Gen Virol 2008; 89: 1945-1948	2007年にチクングニヤウイルス(CHIKV)の新たな広範囲のアウトブレイクがあったインドのケララ州の3つの最悪感染地区で収集された分離株ウイルスについて、遺伝子配列の解析を行った。その結果、糖蛋白エンベロープ1(E1)遺伝子の配列に、ヒトスジマカにおけるCHIKV感染性を上げるとされるA226V変異が認められた。
53	黄熱	ProMED-mail20080406.1268	ブラジルSan Jose do Rio Preto地域で2匹のサルが黄熱感染により死亡した事が確認されたため、Sao Paulo州はこの疾病に対する新たな警告を出した。GrandeおよびParana River地域に住むまたは訪問する人は全員、黄熱ウイルスに対するワクチン接種を受けなければならない。
54	デング熱	Hong Kong Med J 2008; 14: 170-177	1998~2005年に香港の公立病院に入院したデング確定患者全員の医療記録をレトロスペクティブに検討した。126例中123例(98%)がデング熱、3例(2%)がデング出血熱であった。1例が輸血により感染したデング熱であった。116例が輸入症例、10例が地域症例であった。デングウイルス1型が最も多く、次に2型、3型、4型の順であった。死亡例はなかった。発熱、皮疹を呈し、血小板減少などを示す渡航歴のある患者には鑑別診断にデング熱を含めるべきである。
55	デング熱	J Clin Virol 2008; 42: 34-39	2004年のシンガポールTan Tock Seng病院のデング患者について、初回診察時の人口統計学的、臨床的および臨床検査変数をデング出血熱(DHF)発症傾向を決定するために比較する、後ろ向きコホート研究を行った。デング患者1973例のうち118例(6%)がDHFで、内82例(4.2%)が入院中にDHFを発症した。多変量解析の結果、初回診察時の出血や血中尿素の増加などがDHF発症を予測する上で有用と思われた。
56	デング熱	ProMED-mail20080414.1346	マレーシアにおいて2008年1月~3月に、9889例がデング熱と診断され、その内26例が死亡したと疾病管理当局が述べた。昨年同時期は13949例で内34例が死亡で、昨年より減少している。シンガポールでは死亡率の高いデング出血熱が発生している。2008年1月~3月における感染数は2007年同時期より60%多い。
57	デング熱	ProMED-mail20080505.1542	香港Centre for Health Protectionは2008年の11例目のデング熱症例(30歳男性)を確認した。この男性は2008年4月5~13日にモルジブに滞在し、4月18日に発症した。
58	デング熱	ProMED-mail20080519.1668	フィリピン保健局国立疫学センターの調査によると、2008年1月1日~4月10日のデング熱症例数は9555例で、2007年同時期よりほぼ30%多い。デング熱による死亡例は111例で、昨年より29例多い。首都地区で2443例の犠牲者が報告されている。
59	デング熱	ProMED-mail20080707.2059	インドネシアJakarta Timurでは、65地区中46地区がデング熱警戒地区に指定された。Jakarta東部ではデング熱患者数が合計7026例に達した。
60	デング熱	ProMED-mail20080806.2407	2008年7月31日、タイの公衆衛生当局は、デング熱が国中に広がり、今年になってから今までに40000名以上が感染し、48名が死亡たと述べた。ベトナムでは2008年7月下旬現在、21000名のデング熱症例が報告されている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
61	デング熱	ProMED-mail20080811.2486	ラオスでは今年になってから1900名以上のデング熱症例が発生し、その内18名が死亡したため、保健当局は注意を呼びかけている。2008年7月には約500症例および死亡15例が報告され、この数字は更に増加している。
62	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1348-1354	2005年9月20日～12月4日のプエルトリコの米国赤十字におけるすべての供血16521検体中のデングウイルス(DENV) RNAをTMA(transcription-mediated amplification)法で測定したところ、12検体(0.07%)がTMA陽性であった。4検体は、RT-PCR(DENVセロタイプ2および3)陽性であった。RT-PCR陽性4検体中3検体でウイルスを培養することができた。TMA陽性12検体中1検体がIgM陽性であった。1:16に希釈した場合は5検体のみTMA陽性であった
63	デング熱	WHO 2008年4月10日	2008年3月28日現在、ブラジル保健局はデング出血熱647例を含むデング熱症例120570例を報告している(うち死亡48例)。2008年4月2日、リオデジャネイロ州は確定死亡例67例および調査中の死亡例58例を含む57010例を報告した。同州では過去5年間はDEN-3が主なセロタイプであったが、DEN-2の循環が再興しており、小児における重篤例および死亡例が増加している。
64	デング熱	ProMED 20080701.2005 JUL.2008	2008年、バイア州においてデング熱症例30,000例以上が記録されており、2007年同時期と比較して224%増加した。死亡症例は6件であった。また、リオデジャネイロにおいても195000件が登録され、死亡例は142件であった。
65	デング熱	ProMED20081028-3398 Oct28,2008	セアラ州におけるデング熱の検査確認症例は41172例、死亡症例は16例である。1986年以来、1994年の47789例について2番目に大きい流行である。州都フォルタレーサでセアラ集の検査確認症例の74.4%が発生した。
66	デング熱	ProMED 20081104-3459 Nov04,2008	リオデジャネイロ州においてデング熱が大発生しており2008年10月29日までに登録されたデング熱症例は250026(死亡確定症例181例を含む)で有、他にデング熱による死亡が疑われる143件について調査中である。
67	デング熱	N Engl J Med 359(14)1526-1527 Oct.2, 2008	シンガポールにおける輸血によるデング熱出血感染症:2007年7月に献血をしたデング熱ウイルス(2型)無症候性ドナーから赤血球及び新鮮凍結血漿レシピエント(2例)がデング熱ウイルス(2型)陽性であることが判明し、血小板レシピエント(1例)も二次性デング熱感染について血清学的エビデンスがあった。
68	デング熱	ProMED mail20081118-3636 Nov18, 2008	デング出血熱、2008年最新情報-インドネシア(ジャワ):中部ジャワ州Banyumas県の衛生当局は2008年11月中旬までのデング熱症例551例が記録され、2007年と比べて症例数が2倍以上増加したことを報告した。死亡例は5件であった。
69	デング熱	ProMED mail20081118-3636 Nov18, 2008	デング出血熱、2008年最新情報-米領サモア:2008年1月以降のデング熱の確定診断症例数が400例に達した(評価者注:2007年は109例)。うち死亡は1例である。
70	デング熱	Thanh Nien News Nov.27, 2008	季節外れのデング熱症例の増加-ホーチミン市:ホーチミン市熱帯病院の副院長によると毎日30例から50例のデング熱症例を受け入れ150から200例を入院させている。市の保健当局高官によると2008年には14000例が記録され、2007年に比べて35%の増加であると述べた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
71	デング熱	Am J Trop Med Hyg 2008; 79: 495-504	2001年および2002年の台湾南部におけるデング熱アウトブレイクでは、2002年の方が感染症例数および重症度とも増加した。重症化を伴ったウイルス進化を調べるため、流行時の患者31名(デング熱14名、デング出血熱17名)の血漿由来のデングウイルス2型配列を調べた。エンベロップおよび全ゲノム配列解析の結果、2つのアウトブレイクのウイルス間で4つの遺伝子における5つのヌクレオチド変化が明らかとなり、2002年ウイルスは2001年ウイルスのマイナー変異株由来であることが示された。
72	アメリカトリパノソーマ症	Transfusion 2008; 48: 1862-1868	スペイン、カタルーニャ血液銀行は、高リスク供血者におけるシャーガス病スクリーニング計画を実施し、供血者集団でTrypanosoma cruzi(T. cruzi)感染の血清学的陽性率を調査した。その結果、全体の陽性率は0.62%(1770名中11名)で、最も陽性率が高かったのはボリビア人であった(10.2%)。陽性者11名中1名は、シャーガス病流行地域に数年間滞在したことのあるスペイン人であった。非流行国の高リスク供血者にT. cruziスクリーニング検査を実施する必要性がある。
73	パルボウイルス	Biotechnol Prog 2008; 24: 554-560	レジン上に3量体ペプチドを結合し、PBSまたは血漿溶液に添加したブタパルボウイルス(PPV)への選択的な結合能を有するペプチドをスクリーニングした。その結果、WRW(トリプトファン-アルギニン-トリプトファン)結合レジンは7.5%ヒト血漿中のPPVを検出限界以下に除去することができた。
74	パルボウイルス	FDA/CBER 2008年7月 業界向けガイダンス(案)	血漿由来製品によるパルボウイルスB19伝播リスクを低減するための核酸増幅検査(NAT)についてのガイダンス案が示された。全ての血漿由来製剤について、製造プール中のパルボウイルスB19 DNAのウイルス負荷を確実に10000 IU/ml未満とするため、製造過程の品質管理検査としてNATを実施すべきである。ミニプール中でのNATの感度は少なくとも1000000 IU/mlとするべきである。これらの基準を超えるものは使用してはならない。
75	パルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	血漿交換、コルチコステロイドおよびコリンエステラーゼ阻害剤による治療を受けていた重症筋無力症患者が、アルブミンを用いた血漿交換を行った2週後にパルボウイルスB19感染による赤芽球減少症と診断された。アルブミン由来感染かどうかを確定することはできなかったが、アルブミンなどの血液製剤によるB19感染を除外することはできない。
76	トキソプラズマ・パルボウイルス感染	Ginekol Pol 79;186-191 2008	ポーランドで急性トキソプラズマ症および急性パルボウイルス症の血清学的特徴が証明された妊婦の胎児に、胎児水痘症あるいは脳質拡大、胎児水腫、子宮内胎児死亡、羊水異常が見られた。
77	ハンタウイルス	ProMED 20080714-2139 Jul14, 2008	ロシア(バシコルトスタン共和国)において腎症候性出血熱(HFRS)に400人以上が感染し、2例が死亡した。400例は2007年に記録された症例数のほぼ2倍である。同共和国領域は世界でも有数のHFRSウイルス分布の高い流行地域で有、感染率のピークは赤ハタネズミの個体数増加と一致すると予想された。
78	ハンタウイルス	ProMED mail 20081120-3664 Nov20, 2008	腎症候性出血熱-ロシア(サマラ州): サマラ州の住人における腎症候性出血熱の症例数は2007年の3倍に増加し、2008年10月までの症例数は222例であった。調査によりヒトへの感染源であるげっ歯類の28%が感染していることが示された。
79	黄色ブドウ球菌感染	ProMEDmail 20090126.0348	米国Iowa大学公衆衛生学Tara Smith教授はブタ生産システム会社からMRSA ST398株がブタとヒトにおいて発見され、ブタ-ヒト間の伝搬が示唆されたことを報告した。
80	ブルセラ症	Oie http://www.oie.int/wahid-prod/public.php?page=single_report&pop=1&reportid=7129	2008年5月19日、ウクライナIzmail地方でブタ34頭におけるブルセラ症のアウトブレイクが確認された。疑い例はブタ163頭で全て屠殺された。2008年6月20日に清掃および消毒が完了した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
81	ブルセラ症	ProMED-mail20080611.1841	2008年5月、米国Montana州Paradise Valleyのウシ1頭がブルセラ症陽性であった。これにより同州はブルセラ症フリーではなくなった。
82	ブルセラ症	ProMED-mail20080626.1966	Wyoming州Danielの牧場のウシ327頭を予備的に検査した結果、更に13頭がブルセラ症に感染している可能性が示された。同じ群れの2頭がブルセラ症に感染していることが既に確定されている。
83	マラリア	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1434-1436	2007年にマレー半島でフィンランドの旅行者が、通常はサルにおけるマラリアの原因となる二日熱マラリア原虫に感染した。二日熱マラリア原虫はヒトマラリアを引き起こす第5のマラリア原虫種として確立された。この疾病は生命を脅かす危険があり、臨床医と臨床検査技師は旅行者においてこの病原体を更に注意すべきである。
84	リケッチア症	Emerg Infect Dis 2008; 14: 938-940	2006年5月から7月に、中国天津付近の家畜やげっ歯類と密接に接触する健康な農業従事者365名の血清検体をリケッチアに対する抗体について調べた。血清有病率は、Anaplasma phagocytophilum 8.8%、Coxiella burnetii 6.4%、Bartonella henselae 9.6%およびRickettsia typhi 4.1%であった。これらの人畜共通感染症細菌のヒト感染が高頻度であり、認識されていないことが示唆された。
85	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2008; 57(29): 799-801	2008年4月15日に臓器調達機関が、同一のドナーからの腎移植レシピエント2例が重症となり、うち1例が死亡したとCDCに通知した。2008年4月22日の検査結果から、ドナーとレシピエント2名は全員リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)陽性であり、ドナーからの伝播であったことが確認された。移植前にHIV、HBV、HCVなどの標準的なドナースクリーニング検査は行っていたが、LCMVの検査は行っていなかった。
86	レンサ球菌感染	J Infect 2008; 56: 482-483	32歳の男性が頭痛、寒気を伴う発熱および嘔吐が4日続いた後、意識不明で入院となった。検査の結果、細菌性髄膜炎と診断され、起病菌がブタ連鎖球菌2型と同定された。患者は発病の4日前、ブタの食肉処理を行っていた。ポルトガルにおけるヒトでのブタ連鎖球菌感染の初めての症例報告である。
87	レンサ球菌感染	Med J Aust 2008; 188: 538-539	2007年4月、41歳男性が突然の下腹部痛と悪寒を呈し、発熱、下痢、嘔吐および眩暈のためメルボルンの病院に来院した。患者はヒツジ、ウシおよびブタの死体を取り扱うペットフード加工をしていた。血液培養でα溶血連鎖球菌が検出され、API20ステップ同定システムでII型ブタ連鎖球菌と確定された。オーストラリアにおけるヒトでのブタ連鎖球菌毒性ショック症候群の最初の症例である。
88	レンサ球菌感染	IASR 2008; Vol 29: No9 2008年9月	食品加工ブタ内臓処理を業務とする従業員の男性(68歳)に発症した細菌性髄膜炎においてStreptococcus suisが同定された。本菌感染と職業との関連が推定されたが、具体的な感染経路は不明である。また、ヒト-ヒト感染は確認されていない。
89	感染	ProMED-mail20080713.2131	2008年7月11日、インド当局はTamil NaduのErode地区でこの1週間に少なくとも18頭のウシが原因不明の病気で死亡したと報告した。死後の血液や内臓の予備的検査では感染症を確認できなかった。水源が牧草地の汚染が原因の可能性があり、検査中である。狂牛病ではないとしている。
90	感染	Transfusion 2008; 48: 1739-1753	最近米国で承認された2つのフィブリノゲンおよびトロンビンについて、HIV、HCV、HBV、HAV、パルボウイルスB19およびvCJDに関する病原体感染リスクを評価した。これら血液製剤の製造過程では2つの異なった不活化および除去工程が使われている。全製剤とも1パイアル当たりの残存する病原体感染リスクは極めて低いことが示された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
91	感染	日本医真菌学会雑誌 2008; 49: 92 第52回 日本医真菌学会総会 2008年9月10-11日	健常者(63歳男性)の爪真菌症からArthrographis kalraeを分離・同定した。土壌や堆肥との接触を介しての感染が疑われた。イトラコナゾールの内服とミコナゾールの外用で治療を開始したが、心臓頻拍出現のため、外用と削爪のみで経過をみたところ、約6ヶ月で略治した。日本での分離は本症例が初めてである。
92	ウイルス感染	BuaNews online 2008 年10月13日	南アフリカ、ヨハネスブルグで3名の死者を出したウイルスは、暫定的に西アフリカのラッサウイルスに近い、齧歯類媒介性アレナウイルスであると特定された。国立感染症研究所と保健省は共同で、このウイルスが体液を介してヒトからヒトに感染するため、「患者の看護に特別な予防的措置が必要である」との声明を発表した。3名の死因を確定するには更なる検査が必要である。
93	ウイルス感染	Lancet Infect Dis 2008; 8: 355	ボリビア、ペルーおよび米国CDCのチームはボリビアの出血熱の致死症例から新規のアレナウイルスを発見し、Chapare virusと名付けられた。また、ウガンダでは赤オナガザルで新型ポックスウイルスの可能性のあるウイルスが発見された。これら野生動物のウイルスがヒトへの感染能を獲得し、重篤な疾患を引き起こす可能性がある。
94	ウイルス感染	ProMED- mail20081028.3409	2008年10月初旬に南アフリカでアレナウイルスによる感染のアウトブレイクが同定された。9月12日から10月24日までに計5例が報告され、5例中4例が死亡し、1例は入院中である。死亡した4例では発病から死亡まで9~12日間であった。塩基配列分析より、ユニークな旧世界アレナウイルスが原因であることが明らかとなった。現在のところ新たな疑い症例はない。
95	ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10 月13日	南アフリカとザンビア出身者の最近の死亡例3例はアレナウイルス科のウイルスが原因あることが、NICDおよびCDCで行われた検査の結果明らかとなった。詳細な分析が継続されている。一方、南アフリカでは患者と密接に接触した看護師が感染し、入院中である。
96	ウイルス感染	The Mercury Oct.12 2008	南アフリカおよびザンビアにおけるアレナウイルス科の新規ウイルス:南アフリカの国立感染症研究所は、米国CDCが以下の疾患患者3例について病原因子を特定するための検査を行い、新型のウイルスを突き止めたことを発表した。ザンビアに居住する会社員で治療のため南アフリカに移動し、2008/9/14死亡(初発症例)。初発症例の介護をした2名でヨハネスブルグの病院でそれぞれ10/2と10/5に死亡。
97	ウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2008; 27: 347-350	2002年1月~2006年12月にドイツのボン大学病院の3次NICUに入院した1804例の超低体重出生児の診療記録を、壊死性腸炎(NEC)診断について後ろ向きに調べた。その結果、ウイルス検査でNECと同定された32例中6例(19%)の大便中にヒトアストロウイルスが検出された。未熟児におけるNEC発症に同ウイルスが関与することが示唆され、NEC患者の検便検査に同ウイルスを含めるべきである。
98	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	インフルエンザ様疾患の小児の呼吸分泌物中から、汎ウイルスマイクロアレイ法を用いて、初めてヒトカルディオウイルスを同定した。系統遺伝学的分析から、このウイルスはTheilerのネズミ脳脊髄炎ウイルス亜型に属し、Saffoldウイルスと最も近縁であった。また、胃腸疾患患者群498名から得た751例の糞便検体中6検体からカルディオウイルスが検出された。
99	ウイルス感染	J Clin Microbiol 2007; 45: 2144-2150	米国で1981年11月に原因不明の発熱を呈した8ヶ月の女児の大便検体から同定されていない病原体を培養し、単離したウイルスのヌクレオチド配列を調べたところ、Theilerの Maus脳脊髄炎ウイルスと高い相同性を示した。ウイルスゲノムのほぼ全長配列と系統遺伝学的解析から、このウイルスはピコナウイルス科カルディオウイルス属であることが明らかとなった。この新規のウイルスをSAF-Vと命名した。
100	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1398-1405	ドイツとブラジルの全年齢群の胃腸炎患者由来の大便検体844例においてSaffold様ウイルスに関するシステムティック分子スクリーニングを行った。その結果、6歳未満の患者で6つのカルディオウイルスが同定され、6名中4名では共感染していた。大流行パターンに関するエビデンスは得られなかった。系統遺伝学的解析の結果、3つの異なった遺伝的系統が同定された。2大陸で非常に近い株が見つかったことから、ヒトにおける世界的な分布が疑われる。

No.	感染症(PT)	出典	概要
101	ウイルス感染	ProMED-mail20080707.2060	2008年7月1日、中国南部の市場において、疾患発生によるブタのダンピングが行われている。「高熱疾患」は南部地域で再興の兆候を示しており、福建省の地域では非常に高レベルの感染が発生している。
102	ウイルス感染	ProMED-mail20080714.2141	コンゴ共和国Bokunguでサル痘が流行し、3月以来、39症例が記録された。0～5歳の小児19名(死者3名を含む)が含まれている。治療に当たった医師も感染し、隔離された。治療薬が不足している。WHOによると、近いうちに250kgの医薬品が届けられる予定である。
103	ウイルス感染	FDA/CDER Meeting of the Antiviral Drugs Advisory Committee 2008年12月2日	FDAの抗ウイルス剤諮問委員会はSolvay社のCreon(Pancrelipase徐放剤、NDA20-725)およびその他の膵酵素製品(PEPs)がブタ由来であることから、ブタウイルスによるヒトへの感染リスクについて検討した。今までにヒトにおける感染が発生したとのエビデンスはないが、全てのブタ由来PEPは動物のウイルスを含有し、ヒトにおける感染のリスクをもたらす可能性があるというラベルに記載すべきであると勧告した。
104	狂犬病	ProMED-mail20080826.2660	1990年から2007年の中国における狂犬病発生傾向を調べた研究によると、最近8年間でヒト狂犬病症例数が急激に増加したことが明らかとなった。ヒト狂犬病は1990年から1996年の間は全国的な狂犬病ワクチン接種プログラムにより抑制され、わずか159症例が報告されただけであるが、2006年は3279症例と激増した。
105	狂犬病	ProMED-mail20081028.3405	2008年10月26日、中国南西部のYunnan省の田舎で、狂犬病により6名が死亡したため11000匹以上のイヌを処分するよう当局は命令した。Yunnan省Mile郡では90000頭以上のイヌのうち約84000匹は狂犬病ワクチンを接種されていたが、予防接種を受けていない11500匹が処分された。
106	狂犬病	Emerg Infect Dis. 2008 Dec (Epub ahead of print)	新たな狂犬病ウイルス変異体の同定:アメリカのカリフォルニアで狐にかまれたメキシコ移民男性が2008年3月に死亡した。脳のサンプルから単離したウイルスの塩基配列の解析より昆虫食コウモリの狂犬病ウイルスクレイドの特徴的分子構造を有するが、遺伝的多様性としては5%有、高度に保存された321番目のヒステジンがグルタミンに変異していることから、新たな狂犬病ウイルスとして分類した。
107	結核	Lancet 2007; 369: 1270-1276	英国Midlandsで2001-2005年にMycobacterium bovis感染と同定された患者20名全員をDNA fingerprintingで評価したところ、6名のクラスターが同定された。6名は全員が若い英国出身者で、共通のバーに出入りしていた。6名中5名は肺疾患を有し、1名はM bovis髄膜炎で死亡した。1名以外は低温殺菌されていない牛乳の摂取やウシとの接触もなく、共通のバーでのヒト-ヒト感染が示唆された。
108	結核	ProMED-mail20080228.0813	2008年2月26日に発表された「世界における抗結核薬耐性」と題する報告によると、多剤耐性結核(MDR-TB)が今までで最高を記録した。この報告は、2002年から2006年に81ヶ国で収集された結核患者90000名のデータに基づく調査結果である。広範囲薬剤耐性結核菌(XDR-TB)が45ヶ国で記録され、またHIV感染とMDR-TBとの関連性が示された。毎年50万近くの新規のMDR-TB患者がいるとWHOは見積もっている。
109	結核	ProMED-mail20080703.2031	2008年7月2日付け7-Day Newsの報道によると、ミャンマーでは、サイクロンの発生後2ヶ月でサイクロンの被害者21834例が結核感染していることが確認された。結核以外の疫病はサイクロン被害地域で発生していない。
110	結核	ProMED-mail20080710.2100	California中部で結核感染リスクで4800頭以上の乳牛が処分され、16000頭近くのウシが隔離されている。Fresno郡の酪農場で新たに3頭が結核であることが明らかになった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
111	結核	第117回日本結核病学会東北地方会(2008年9月20日)	38.5°Cの発熱を主訴とし来院した54歳男性は胸部X線写真ですりガラス陰影を認め、尿中レジオネラ抗原陽性のため、レジオネラ肺炎と診断された。患者喀痰からL.rubrilucens、温泉水からL.rubrilucensとL.pneumophilaの2菌種が分離された。尿中抗原検査はL.pneumophila陽性を示し、患者はL.rubrilucensとL.pneumophilaの複合感染と推定された。L.rubrilucensが同定された国内外初めての肺炎症例である。
112	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahid-prod/public.php?page=report&pop=1&reportid=7228	2008年6月6日、コロンビアで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。家畜の足の上皮検体の補体結合テストおよびELISA検査では口蹄疫ウイルス陰性であったが、2008年7月28日に、6頭のウシの咽頭食道液中のウイルス分子特定化によって確定された。ウシ19頭およびブタ6頭の感染が確定された。
113	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahid-prod/public.php?page=report&pop=1&reportid=7248	2008年5月28日と6月1日にコロンビアで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ウシでは確定例は58頭、疑い例は490頭、ブタでは確定例は無し、疑い例3頭であった。
114	細菌感染	Am J Infect Control 2008; 36: 602	減量法として両耳の上部耳介軟骨に置き鍼治療(Stapling)を受けた16歳の女性が、2週間後に左耳の鍼周囲の紅斑および圧痛を呈した。膿瘍ドレナージ検体の培養および感受性試験の結果、両耳で著しい緑膿菌の生育が認められた。21日間の経ロシプロフロキサシン投与により回復した。外耳軟骨は、血流に乏しく特に感染しやすい。耳鍼が危険な緑膿菌感染を起こす可能性があることを医師は認識するべきである。
115	細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	米国ミネソタ州の68歳男性が、2007年10月12~21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3~5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人にA. phagocytophilum陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。
116	細菌感染	Oie/Weekly Disease Information 2008年10月23日号	2008年10月10日にカナダSaskatchewan州Moose Jaw郡Assiniboiaで、ウシアナプラズマ病のアウトブレイクが発生し、10月10日に確定された。10月22日現在、継続中である。ウシにおいて疑い例89頭、確定例1例、処分1例である。
117	細菌感染	PIA Press Release 2008年7月23日	フィリピンBorongan市の2つの町で約143頭のスイギュウが死亡した。出血性敗血症に類似するこの疾患に注意するように呼び掛けている。約231頭の家畜がこの細菌に感染した。伝染性が高く、体液を通じて次々に感染する。人々の健康と安全性のためスイギュウの屠殺を一時的に禁止した。
118	細菌感染	ProMED-mail20080805.2400	WHO中国事務局は中国衛生省と診断未確定の出血性疾患について連絡を取っている。中国の専門家は調査を終了した。Shandong省のWanjiakou村においてヒト顆粒球アナプラズマ症の症例4例が特定された。診断はPCRとシーケンス分析で確定された。
119	細菌感染	Transfusion 2008; 48: 1520-1521	骨髄異形成症候群と汎血球減少症の79歳男性が、血小板輸血と続いて赤血球1単位の輸血を受けた。40分後に39.6°Cの発熱、硬直、背部痛、低血圧および低酸素症を呈し、輸血は中止された。患者は抗菌剤による治療で回復した。患者の血液および赤血球バッグの残存物からStreptococcus pneumoniae血清型4が検出された。赤血球輸血によるS pneumoniae感染の初めての症例である。
120	細菌感染	ProMED-mail20081120.3661	CDC中国国立研究所の研究者らによる研究で、中国における初めてのヒト顆粒球アナプラズマ症(HGA)症例およびそれに続くHGAの初めてのヒト-ヒト感染が報告された。指標患者は発熱・出血の発症の12日前にダニに刺され、安徽省の病院に入院し、死亡した。死亡前12時間に患者と濃厚接触した28名中9名がAnaplasma phagocytophilumに感染した。9名全員が血液に接触し、7名が気道分泌物に接触していた。この研究はJAMA2008年11月19日号に掲載された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
121	細菌感染	HPA/Health Protection Report 2(43) 2008年10月24日	2007年1月1日～12月31日に英国中の血液センターからNHSBT/HPA TTIサーベイランスにTTIが疑われる報告が25件有、調査の結果、3件(全て細菌)がTTIと判定された。3件中2件は赤血球輸血に関連、1件は血小板輸血に関連していた。21件はTTIではないと判定され、GMVの1例は調査が完了していない。赤血球のレシピエントにおいて細菌のTTIが確認されたのは1999/2000年以降初めてである。
122	ハンセン病、らい腫型	Am J Clin Pathol, 130: 856-864,2008	広範性らい腫らい(DLL)により死亡した患者からMycobacterium属の新種が確認された: DLLにより死亡した1症例から肝組織、他の1症例から皮膚組織から抗酸菌のDNAを抽出し16Sribosomal RNA遺伝子および他の5つの遺伝子の相同性を解析した。その結果、らい腫(M. leplae)と共通の起源ではあるが、そこから分岐した別のmycobacteriaであることからM. lepromatosisと命名した。
123	旋毛虫症	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 40-44	ラオス北部のUdomxay地区病院における2005年6月から2006年5月の旋毛虫疑い症例138名について調査した。その結果、結婚式または葬式に出席した人の比率が高く、生または発酵ブタ肉料理を食べていたことが明らかとなった。ELISA分析の結果、これらの症例のTrichinella陽性率は67.6% (138名中90名)であった。同地区の屠殺場のブタ肉1検体からTrichinellaが検出され、T. spiralisと同定された。
124	炭疽	ProMED-mail20080626.1968	2008年6月9日に、米国North DakotaのPortland付近の雄牛1頭の血液検体が検査のため提出され、炭疽菌が検出された。更に、6月18日にLisbon付近の雌牛1頭が死後、炭疽菌陽性と確定された。
125	炭疽	ProMED-mail20080724.2257	2008年7月23日に米国South Dakota州当局は、Hutchinson郡で炭疽のアウトブレイクが発生したと発表した。1件は確定であり、もう1件は疑いで、検査中である。
126	炭疽	ProMED-mail20080726.2280	2008年7月24日に米国South Dakota州当局は、Hutchinson郡で炭疽の2番目のアウトブレイクが、検査の結果確定したと発表した。
127	炭疽	ProMED-mail20080727.2297	2008年7月24日にPaddockwoodのバイソン7頭が炭疽により死亡したことが確認されたが、残りの動物は隔離され、現在観察中である。2006年にはSaskatchewanでは800頭以上の動物が炭疽により死亡した。2008年はこれまで21頭が炭疽により死亡している。
128	炭疽	ProMED-mail20080812.2500	CFIAは2008年8月11日と8月9日に、Saskatchewanで更に2件のウシにおける炭疽を確認した。今年の春以降の炭疽による死亡は24頭となった。
129	炭疽	ProMED-mail20080815.2540	米国MontanaのTed Turner's Flying D付近の農場でウシ1頭が炭疽陽性であり、自然発生した炭疽により死亡した。更にTed Turner's Flying D農場では炭疽により死亡したバイソンの数が増加し、現在までに257頭となった。
130	炭疽	ProMED-mail20080818.2569	米国South Dakotaの3つのウシの群れで炭疽が発生した。このアウトブレイクは比較的小さいとのことである。

No.	感染症(PT)	出典	概要
131	炭疽	ProMED-mail20080707.2061	カザフスタンのKyzylordinsky地区で2008年7月1日に、暫定的に炭疽と診断され入院した35歳の男性は、7月3日に死亡した。この患者は病気の雌牛を屠殺していた。7月2日には同じ牛の屠殺に参加していた更に2名が炭疽の疑いで入院した。この2名の状態は順調である。
132	炭疽	ProMED-mail20080708.2080	ベトナムHa Giang省で、2008年6月下旬に炭疽に感染した牛肉を食べた後、約420名が中毒となった。同省の予防保健センターは、感染した人々はMeo Vac地方のPo Qua村の約90家族であると発表した。2008年6月21日に、死因不明の雌牛の牛肉を食べた2家族が感染し、6月29日に2名が死亡し、3名が危篤である。
133	炭疽	ProMED-mail20080716.2161	2008年7月14日現在、キルギスタン南部で、ヒトにおいて炭疽症例9例が確定され、34名が炭疽の疑いで入院中である。確定例のうちの1例である78歳男性は2008年7月10日に死亡した。この患者は感染した動物を屠殺した後、発病したが、数日間家で過ごし、7月9日に病院に行った時には手遅れであった。
134	炭疽	ProMED-mail20080718.2185	2008年7月15日、キルギスタン南部で、汚染した牛肉を食べた後、6名が炭疽で入院したと、当局が発表した。計167名が感染した牛肉を食べたことが判明している。うち危篤状態の6名は炭疽であることが確定された。他の161名の状態は観察中である。このアウトブレイクは南キルギスタンで約1ヶ月のうちに2番目のアウトブレイクである。
135	炭疽	ProMED-mail20080806.2419	2008年7月31日、カザフ緊急対策省は、炭疽による患者死亡を報告した。7月28日にカザフスタン南部のLenkor町の病院に入院した38歳男性は、集中治療にかかわらず7月30日に死亡した。この患者は病気のウシの屠殺中に炭疽に感染した。
136	炭疽	ProMED-mail20080918.2925	2008年9月16日共和国緊急省は、キルギスタン南部で炭疽の2つのアウトブレイクが報告されると発表した。この致死性疾患はBatken地域で小児数名を含む14名で確定されている。全員が病気のウシを処分した後に感染した。Jalal-Abad地域では炭疽の症状を示した6名が入院中である。
137	炭疽	ProMED-mail20081117.3631	ジンバブエ西部のMatabeleland North省 Lupane地域では最近の炭疽のアウトブレイクの後、3000頭以上のウシが炭疽に対するワクチンを接種された。2008年11月14日、当局は前の報告とは異なり、ウシ147頭が死亡し、2人が死亡したと明らかにした。
138	炭疽	ProMED-mail20081128.3751	炭疽がジンバブエ南部を襲い、住民と家畜の生命を脅かしている。Matabeleland North省当局は炭疽による死者は2名と確定したが、Lupane近くのDongamuzi地区では6人と200頭以上のウシが死亡したとChronicle新聞は報告した。ジンバブエ第2の都市Bulawayoでは大部分の人がLupanaのような田舎の動物の肉を買うため、アウトブレイクが重大な関心事となっている。
139	炭疽	ProMED-mail20081201.3774	コレラの流行と混合して炭疽のアウトブレイクはジンバブエを最悪にしていると国際援助機関は2008年12月1日に警告した。ジンバブエ北西部辺境ではヒトでの感染32例および死亡3例が報告されている。炭疽により家畜150頭、ゾウ2頭、カバ70頭および水牛50頭が既に死亡した。同地区では6万頭のウシが死亡する恐れがある。
140	野兎病	Emerging Health Threats Forum/Disease outbreaks update 2008年6月16日	ニューヨーク市ブルックリン地区で肺炎性野兎病の確定症例1例が報告されたと、地元保健当局が2008年6月11日に報告した。患者は6月初旬に熱、頭痛、発汗、胸痛および息切れのため地元の病院で診察を受けた。症状発現の4日前に患者がブルックリンのレクリエーション地区でキャンプをした際に感染したと思われる。

No.	感染症(PT)	出典	概要
141	野兔病	http://www.mk.ru/blogs/idmk/2008/07/21/mk-daily/362939/	モスクワで今年初の野兔病感染例が確認された。この症例は53歳男性で、モスクワ郊外のナロ・フォミン地区で急性伝染病に感染した。6月下旬同地区に休暇のため数日間滞在し、釣りやキノコ採りをしたが、2008年6月26日に発熱と悪寒を呈し、鼠径部に鶏卵ほどの腫れ物ができた。野兔病との疑いのため伝染病病院に転院し、血液検査により確定された。
142	野兔病	http://www.nortecastilla.es/20080810/castilla_leon/cada-cuatro-casos-tularemia-20080810.html	2007年6月から12月にスペインのカスティーリャ・イ・レオン州で507例の野兔病感染症例が確認された。このアウトブレイクでは、4分の1の症例がげっ歯類との直接接触に起因すると確認された。患者は41～70歳の男性が多く、大多数が農村の住民または農村に頻繁に行き来する人であった。24.3%はtopillos(ハタネズミ属の一種)に起因しており、家畜19.7%、サワガニ13.2%、蚊刺傷10.9%、他の動物との接触9.5%、ウサギの取り扱い6.5%などが原因であった。
143	野兔病	minyu-net 福島民友 ニュース 2008年3月13日	福島県は2008年3月12日、いわき市の保健所管内で50歳代の男性が野兔病に感染したと発表した。大原総合病院付属大原研究所によると、県内の発生は96年以来とのことである。男性は1月13日ごろ狩猟中に野ウサギに触れたところ、1月16日に発熱や悪寒などの症状が出たため受診し、3月5日に野兔病と診断された。症状は軽く、すでに回復している。
144	野兔病	www.bangkokpost.com/general news 2008年3月18日	2008年3月17日、タイの公衆衛生当局はタイで初めての野兔病と診断されたPrachuap Khiri Khanの37歳女性が死亡したと発表した。この女性は癌患者で、多数のウサギを家で飼っており、野兔病菌に感染したと思われる。他の犠牲者は報告されていない。
145	野兔病	第62回日本細菌学会 東北支部総会 2008年8月21-22日	2008年5月に青森県の農場で衰弱死したトウホクノウサギを病理解剖したところ、脾臓・リンパ節の腫脹が顕著であったため、脾臓からの細菌分離を行い、同定を試みた。純培養菌の生化学的性状試験およびPCR法による特異遺伝子の検出より、野兔病菌(<i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>Holarctica</i>)と同定した。青森県では1990年以来初めての野兔病発生報告である。
146	中毒	厚生労働省医薬食品局 食品安全部 監視安全課 輸入食品安全対策課 (2008/12/8)	2008年12月8日、アイルランド政府より、アイルランド国内におけるモニタリング検査において、豚肉から欧州委員会の設定する基準値を超えるダイオキシンが検出されたため、2008年9月以降に食肉処理されたすべてのアイルランド産豚肉等について回収措置を講じるとの通報があった。アイルランド政府は養豚用の家畜飼料がダイオキシンに汚染されていたことが原因としている。
147	神経系障害	Neurology 2008; 71: 153	2007年末、米国Austinのブタ肉処理施設の従業員に典型的な神経学的疾患が認められ、12月までに12症例が確認された。12例中10例でCSF蛋白が上昇し、1例は髄液細胞増加が見られた。10例でMRIにより脊髄神経根の増強が見られた。全員でIgGの免疫染色パターンを含む新規の神経自己抗体プロファイルが確認された。この症候群は多発神経根筋障害であった。特徴的な環境曝露によって神経学的自己免疫が誘導されたことを支持する。
148	神経系障害	ProMED-mail20080417.1376	2008年4月16日、豚肉加工場の作業員における原因不明の神経疾患症例数は3つの州で24例となり、他の可能性症例が評価中である。ミネソタ州のQPP工場の作業員が18名、インジアナ州で5名およびネブラスカ州で1名である。
149	神経系障害	Health Protection Report Vol.2.No32 2008年8月8日	ミネソタのブタ処理施設における神経疾患症例のクラスターに関する継続調査。米国処理施設の調査で3施設のみにおいて脳組織を摘出するための圧縮空気技術の使用が確認され、3施設全てで合計施設労働者24名の進行性炎症性神経障害(PIN)発症が確認されている。作業仮説は依然として、これらの労働者神経障害を引き起こす自己免疫反応の進行を導く細かい霧状の脳組織に暴露された、ということである。